

お知らせ
コーナー

「千葉県遺跡調査研究発表会」 のお知らせ

県内の埋蔵文化財を調査する法人で組織される「千葉県文化財法人連絡協議会」では、調査成果を広く県民の皆様にご紹介するため、今年度も「千葉県遺跡調査研究発表会」を開催いたします。

なお、当日は発表遺跡に関する出土遺物の展示や報告書等の販売も行います。参加希望の方は、当日会場へ直接お越し下さい。参加費は無料です。

日 時 平成18年1月22日(日)
10:00~15:20

会 場 千葉市文化センター
(千葉市中央区2-5-1ツインビル2号館)
3階アートホール(研究発表会)
5階市民サロン(展示会場)

交 通 JR総武本線「千葉駅」下車徒歩10分
京成千葉線「千葉中央駅」下車徒歩10分

研究発表会 【午前の部】10:10~11:40
【午後の部】13:00~15:20

詳細が決まり次第、ホームページなどでお知らせします。

『ふさの国の文化財総覧』

待望の第2巻、第3巻発売開始!!

第2巻(香取・海匠・印旛) 定価1,500円
A4版292頁オールカラー

第3巻(東葛・京葉・君津・山武) 定価1,500円
A4版276頁オールカラー

好評発売中

第1巻(安房・夷隅・長生) 定価1,400円
A4版238頁オールカラー
残部僅少



内 容

県内に所在する国や千葉県が指定・登録した文化財のガイドマップ! 文化財の所在地を訪ねるのに便利な交通案内地図入り
*申し込み冊数によって送料・送付方法が変わりますので、事前にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先

財団法人千葉県文化財センター 資料課
電話043-422-8811(代)

お近くの博物館でも販売中!

県立上総博物館	県立安房博物館	県立総南博物館
県立大根博物館	県立房総のむら	県立中央博物館
県立美術館	県立関宿城博物館	

埋文
レポート

昔・昔・あるところに... 柏市大松遺跡現地説明会

千葉県文化財センターでは、調査のようすや最新の成果を広く県民の皆さんに見ていただくため、年に数回、各地で現地説明会を開催しています。

今年度の第1回目の説明会は、5月28日に柏市大松遺跡で行いました。大松遺跡は北に筑波山を望む、利根川沿岸の水田地帯を見下ろす台地上にあります。8月24日に開通したつくばエクスプレスの、『柏たなか駅』の北側にあたります。

当日は今年度の調査で見つかった縄文時代前期(約6,000年前)の集落についての詳しい説明のほか、これまでに出土した遺物の展示解説も行い、初夏の強い陽射しのなか400人をこえる方々にご参加いただきました。

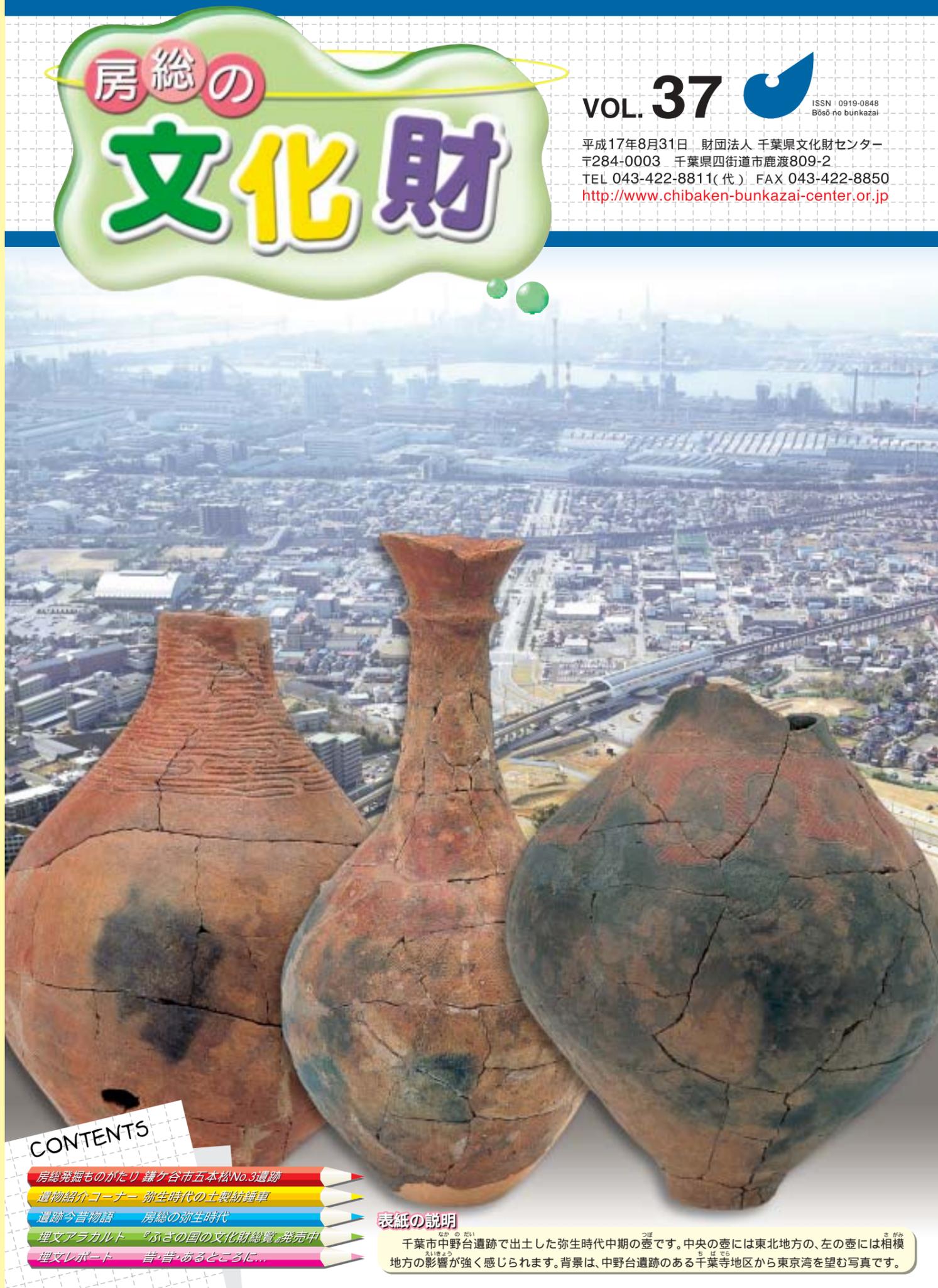


石器を作るに使われたメノウ

現在、四街道市にある千葉県文化財センターの本部では、大松遺跡でこれまでに見つかった遺物の整理作業が進行中です。

旧石器時代では、約27,000~20,000年前のナイフ形石器の製作跡が22か所見つかっています。なかには、メノウ(宝石にもなるきれいな石)で作った石器もあります。

また縄文時代中期(約4,500年前)の竪穴住居跡100軒以上、食料貯蔵用の穴300個以上が直径120mの環のように並ぶムラも見つかっています。大量に掘り出された縄文土器には、中部地方の山間部のもや北関東のもの、利根川の下流や霞ヶ浦周辺のものなどがあり、大松遺跡が文化交流の交差点だったことがわかります。



房総の

文化財

Vol. 37



ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai

平成17年8月31日 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代) FAX 043-422-8850
<http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp>

CONTENTS

- 房総発掘ものがたり 鎌ヶ谷市五本松No.3遺跡
- 遺物紹介コーナー 弥生時代の土製紡錘車
- 遺跡今昔物語 房総の弥生時代
- 埋文アラカルト 『ふさの国の文化財総覧』発売中
- 埋文レポート 昔・昔・あるところに...

表紙の説明

千葉市中野台遺跡で出土した弥生時代中期の壺です。中央の壺には東北地方の、左の壺には相模地方の影響が強く感じられます。背景は、中野台遺跡のある千葉寺地区から東京湾を望む写真です。



鎌ヶ谷市五本松No.3遺跡

今年の巡回展の中から今回は、旧石器時代の石器の材料となった石の流通のようすをご紹介します。房総半島では、さまざまな地域から石材が運び込まれていて、それらを研究することで、当時

の人びとの動きを探ることができます。

鎌ヶ谷市五本松No.3遺跡からは、約27,000年前の石器を作ったあとが発見されました。そこに残された黒曜石の破片をパズルのように貼り合わせると、約15cm x 10cmのたまご形のかたまりになります。

分析の結果、これは栃木県からもたらされたということが明らかになりました。このパズルの中で、発見されなかった石の破片は、槍の先やナイフなどに加工されて使われたのでしょうか。



会場・期間

千葉県立大利根博物館 終了しました
☎ 0478-56-0101
平成17年7月9日(土)~7月31日(日)

千葉県立関宿城博物館 終了しました
☎ 04-7196-1400
平成17年8月4日(木)~8月31日(水)

千葉県立房総のむら
☎ 0476-95-3333
平成17年9月4日(日)~9月25日(日)

千葉県立安房博物館
☎ 0470-22-8608
平成17年10月1日(土)~10月30日(日)

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
☎ 0479-77-1828
平成17年11月3日(木)~12月4日(日)

千葉県立上総博物館
☎ 0438-23-0011
平成17年12月10日(土)~平成18年1月22日(日)

千葉県立中央博物館
☎ 043-265-3111
平成18年2月4日(土)~3月2日(木)
「発掘された日本列島展2005」と同時開催

遺物紹介

弥生時代の土製紡錘車



うえ

よこ

印西市松崎 遺跡出土 (弥生後期)

私たちが生活するうえで「衣・食・住」の確保は、必要最低限の条件です。紡錘車は中心の孔に心棒を通して糸を紡いだ道具で、衣類づくりのおもとを担いました。写真は最近出土した弥生後期のもので、文様がつけられています。縄文時代の紡錘車は土器片を再利用したものが主でしたが、弥生時代には専用の製品となります。これらの土製紡錘車は、利根川下流域から霞ヶ浦周辺にかけての遺跡から大量に出土することから、この一帯で糸や布が盛んにつくられたようです。



うえ



よこ



した

印西市船尾白幡遺跡出土 (弥生後期)

特集

遺跡

今昔物語



印旛沼北岸の土器(弥生後期)(印西市船尾白幡遺跡) 壺の文様には、北の茨城県側の土器と共通する特徴が見られます。



並んでつくられた方形周溝墓(市原市中潤ヶ広遺跡) 溝で四方を区切ったお墓です。この遺跡では住居跡とセットで見つかりました。



房総半島南部の土器(弥生中期)(君津市常代遺跡) 南西関東的な土器の良好なセットです。人びとが東京湾をはさんで盛んに行き来した結果かもしれません。

房総の弥生時代

近年報告の成果から

今回の「遺跡今昔」コーナーは、当センターでごく最近報告した、あるいは現在整理作業中というホットな遺跡の中から、房総の弥生時代について少しご紹介します。弥生時代というと西日本中心と思われがちですが、意外と身近に遺跡があるんですよ!

弥生時代の関東地方は、神奈川県を中心とした南西部と、栃木県や茨城県などの北東部で、ようすがかなり異なります。例えば、南西部では「環濠集落」と「方形周溝墓」が多く見られますが、北東部ではこうした遺構はありません。房総半島は、この二つの地域の中間にあたり、南北の文化が接触し、混ぜり合って、いわば弥生時代の「文化の十字路」となっていました。房総半島は南北に長く、場所によ

って影響の受け方が異なるため、同じ県内でもさまざまな様相が見られます。



印旛沼南岸の土器(弥生後期)(八千代市道地遺跡) 北と南の土器が一緒に出土しています。両方の要素をあわせ持つ「折衷土器」も出土しています。



環濠と住居跡(君津市鹿島台遺跡) 中央に見られる2列の溝が環濠です。この遺跡で出土した土器は、出土遺物巡回展で展示中です。

- :2004年刊行 千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 - 印西市船尾白幡遺跡-(第477集)
- :2004年刊行 船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2 - 八千代市道地遺跡-(第464集)
- :今年度末報告書刊行予定
- :今年度末報告書刊行予定
- :2004年刊行 国道127号埋蔵文化財調査報告書-君津市常代遺跡六反免地区ほか-(第493集)
- 表紙:今年度末報告書刊行予定

BC(紀元前) | AD(紀元後)

旧石器時代

約12,000年前

縄文時代

弥生時代

約2,000年前

古墳時代

約1,700年前

古代

飛鳥時代

奈良時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

安土・桃山時代

近世

明治

近・現代

昭和

平成

大正